

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

COVID-19 の流行前後での母乳育児率に関連する因子の解明

1．研究の対象および研究対象期間

2017 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までに昭和大学江東豊洲病院において分娩及び出生した患者さん（褥婦及び新生児）を対象としております。

2．研究目的・方法

日本では 93% の妊婦が母乳栄養を希望しており（授乳・離乳の支援ガイド 2019 年改定版）、昭和大学江東豊洲病院でも多くの褥婦が母乳栄養を希望されています。そのために支援として昭和大学江東豊洲病院では、妊娠期の両親学級や妊婦健診における保健指導、また産褥期において早期母子接触や産後助産師外来を行なっています。しかし、臨床現場では 2019 年末より世界的に大流行している COVID-19 を理由に妊婦・産婦・褥婦から母乳育児に対して消極的な意見が聞かれるようになりました。その要因として、COVID-19 感染予防対策として妊娠期の両親学級の中止、妊婦健診健診の縮小化、産褥期においては入院期間の短縮化や産後助産師外来の縮小化、また移動自粛のため地方にいる両親からの退院後のサポートが受けづらい状況などが予測されます。

本研究の目的は、コロナ禍における有効な母乳育児支援を検討するために、COVID-19 の流行前後での母乳育児率に関連する因子を明らかにすることです。

研究方法は診療記録のみを用いた後方視的研究となります。

3．研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 3 月 31 日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

患者診療録の中から患者背景（年齢、性別、既往歴、現病歴、就業内容、配偶者の年齢）および周産期情報（分娩歴、不妊治療歴、今回の妊娠中の入院歴、妊娠中の保健指導情報、両親学級情報、分娩日、分娩予定日、分娩週数、分娩様式、分娩所要時間、分娩時出血、児の出生児体重、アプガースコア、NICU 入院歴、児の入院経過、児の成長推移、入院期間、授乳状況、育児状況、サポート状況、電話相談・オンライン相談情報、産後助産師外来情報、産後 1 ヶ月健診情報、EPDS、赤ちゃんの気持ち質問票、メンタル受診記録）を調査項目とします。

